

第3章

生活機能評価等に関する分析 (高齢者一般調査)

第3章 生活機能評価等に関する分析

1. 機能別リスク該当者割合の分析

(1) 運動器

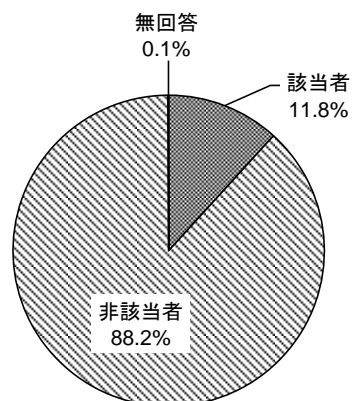
厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」（以下「国の手引き」という）をもとに、以下の5項目のうち3項目以上を選択した人を運動器のリスク該当者としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問5(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問5(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問5(3)	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問5(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問5(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で11.8%が運動器のリスク該当者となっています。



n=7,926

第3章 生活機能評価等に関する分析

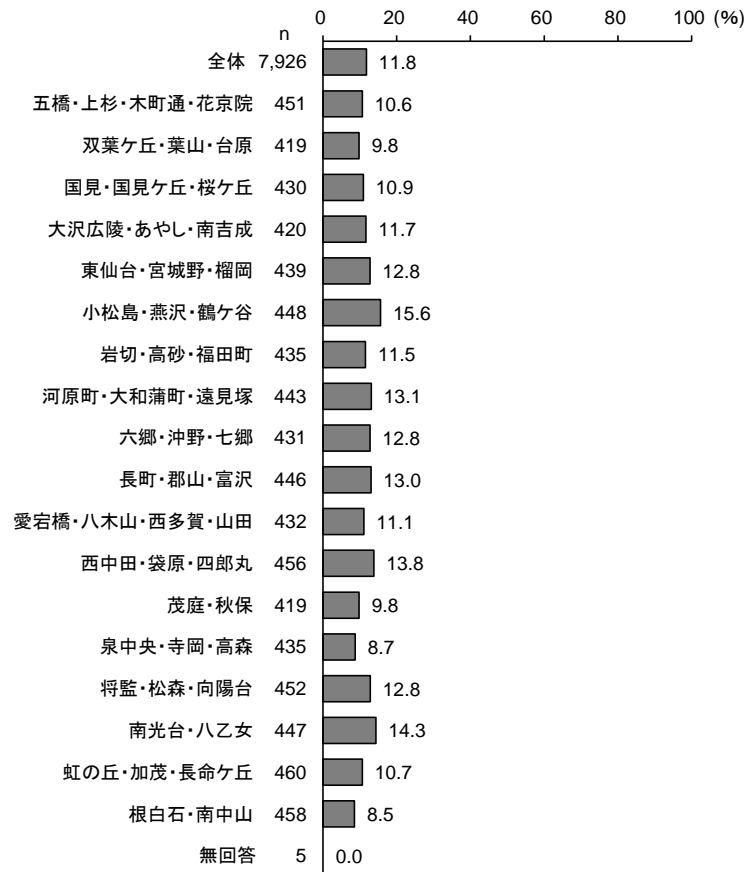
○性別・年齢別にみると、女性では80歳以上の年齢層で、男性に比べて運動器のリスク該当者が多くなっています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	932 100.0	92 9.9	166 17.8	178 19.1	196 21.0	297 31.9	3 0.3
問1 本人の性別							
男性	285 100.0	31 10.9	58 20.4	68 23.9	46 16.1	82 28.8	— —
女性	639 100.0	61 9.5	107 16.7	110 17.2	146 22.8	214 33.5	1 0.2
無回答	8 100.0	—	1 12.5	—	4 50.0	1 12.5	2 25.0

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、運動器のリスク該当者が多くなっています。また、85歳以上では要支援認定者が一般高齢者を26.2ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	932 100.0	92 9.9	166 17.8	178 19.1	196 21.0	297 31.9	3 0.3
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	617 100.0	78 12.6	130 21.1	137 22.2	122 19.8	150 24.3	— —
総合事業対象者	9 100.0	3 33.3	2 22.2	1 11.1	2 22.2	1 11.1	— —
要支援認定者	273 100.0	8 2.9	29 10.6	37 13.6	61 22.3	138 50.5	— —
無回答	33 100.0	3 9.1	5 15.2	3 9.1	11 33.3	8 24.2	3 9.1

○調査区域別にみると、運動器機能低下のリスク該当者の割合が最も多いのは小松島・燕沢・鶴ヶ谷で15.6%、最も少ないのは根白石・南中山で8.5%となっており、7.1ポイントの差となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

(2) 閉じこもり

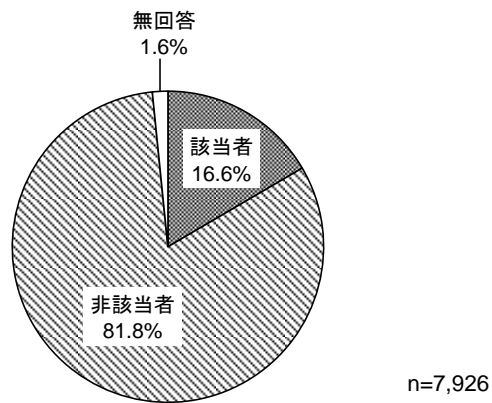
国の手引きをもとに、以下の項目に該当する人を閉じこもりのリスク該当者としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問5(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で16.6%が閉じこもりのリスク該当者となっています。



○性別・年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、閉じこもりのリスク該当者が多くなっています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	1313 100.0	148 11.3	304 23.2	269 20.5	257 19.6	327 24.9	8 0.6
問1 本人の性別							
男性	520 100.0	64 12.3	129 24.8	117 22.5	92 17.7	118 22.7	— —
女性	777 100.0	84 10.8	173 22.3	150 19.3	160 20.6	208 26.8	2 0.3
無回答	16 100.0	— —	2 12.5	2 12.5	5 31.3	1 6.3	6 37.5

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、閉じこもりのリスク該当者が多くなっており、85歳以上（51.2%）では65～69歳（2.0%）を49.2ポイント上回っています。また、85歳以上では要支援認定者が一般高齢者を31.1ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	1,313 100.0	148 11.3	304 23.2	269 20.5	257 19.6	327 24.9	8 0.6
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	1,046 100.0	135 12.9	271 25.9	238 22.8	192 18.4	210 20.1	— —
総合事業対象者	12 100.0	1 8.3	2 16.7	4 33.3	3 25.0	2 16.7	— —
要支援認定者	201 100.0	4 2.0	22 10.9	23 11.4	49 24.4	103 51.2	— —
無回答	54 100.0	8 14.8	9 16.7	4 7.4	13 24.1	12 22.2	8 14.8

第3章 生活機能評価等に関する分析

○調査区域別にみると、閉じこもりのリスク該当者の割合が最も多いのは茂庭・秋保で21.0%、最も少ないのは泉中央・寺岡・高森で12.2%となっており、8.8ポイントの差となっています。



(3) 転倒

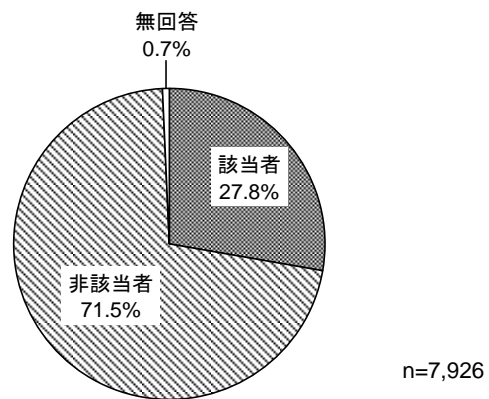
国の手引きをもとに、以下の項目に該当する人を転倒のリスク該当者としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問5(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で27.8%が転倒のリスク該当者となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

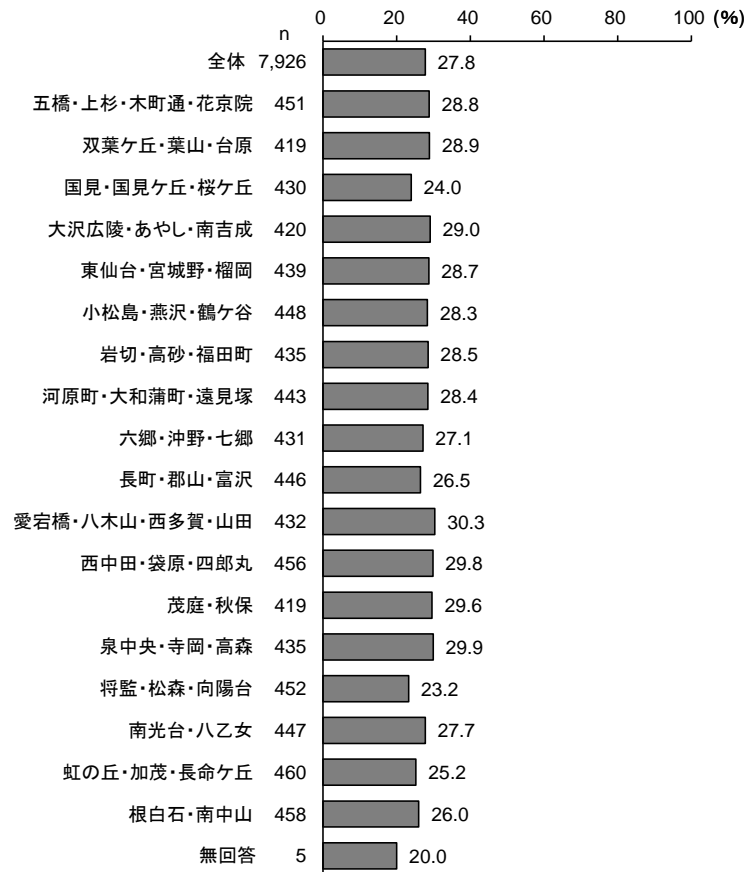
○性別・年齢別にみると、大きな差はみられませんでした。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	2,200 100.0	456 20.7	591 26.9	426 19.4	354 16.1	365 16.6	8 0.4
問1 本人の性別							
男性	896 100.0	185 20.6	251 28.0	169 18.9	140 15.6	151 16.9	— —
女性	1,283 100.0	269 21.0	336 26.2	254 19.8	210 16.4	212 16.5	2 0.2
無回答	21 100.0	2 9.5	4 19.0	3 14.3	4 19.0	2 9.5	6 28.6

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、転倒のリスク該当者が多くなっており、85歳以上（47.1%）では65～69歳（4.2%）を42.9ポイント上回っています。また、85歳以上では要支援認定者が一般高齢者を34.5ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	2,200 100.0	456 20.7	591 26.9	426 19.4	354 16.1	365 16.6	8 0.4
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	1,858 100.0	427 23.0	543 29.2	377 20.3	276 14.9	235 12.6	— —
総合事業対象者	29 100.0	9 31.0	5 17.2	8 27.6	4 13.8	3 10.3	— —
要支援認定者	240 100.0	10 4.2	28 11.7	30 12.5	58 24.2	113 47.1	1 0.4
無回答	73 100.0	10 13.7	15 20.5	11 15.1	16 21.9	14 19.2	7 9.6

○調査区域別にみると、転倒のリスク該当者の割合が最も多いのは愛宕橋・八木山・西多賀・山田で30.3%となっており、他に10調査区が28%~30%の割合となっています。一方、最も少ないのは将監・松森・向陽台で23.2%となっており、7.1ポイントの差となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

(4) 低体重

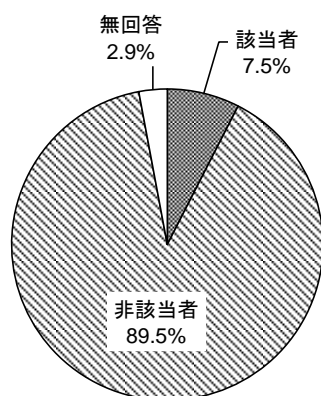
調査票の以下の設問からBMIを算出し、18.5未満の方を低体重としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問6(1)	身長・体重をご記入ください	BMI 18.5未満

【該当状況】

○回答結果をみると、全体で7.5%が低体重となっています。



n=7,926

○性別・年齢別にみると、大きな差はみられませんでした。

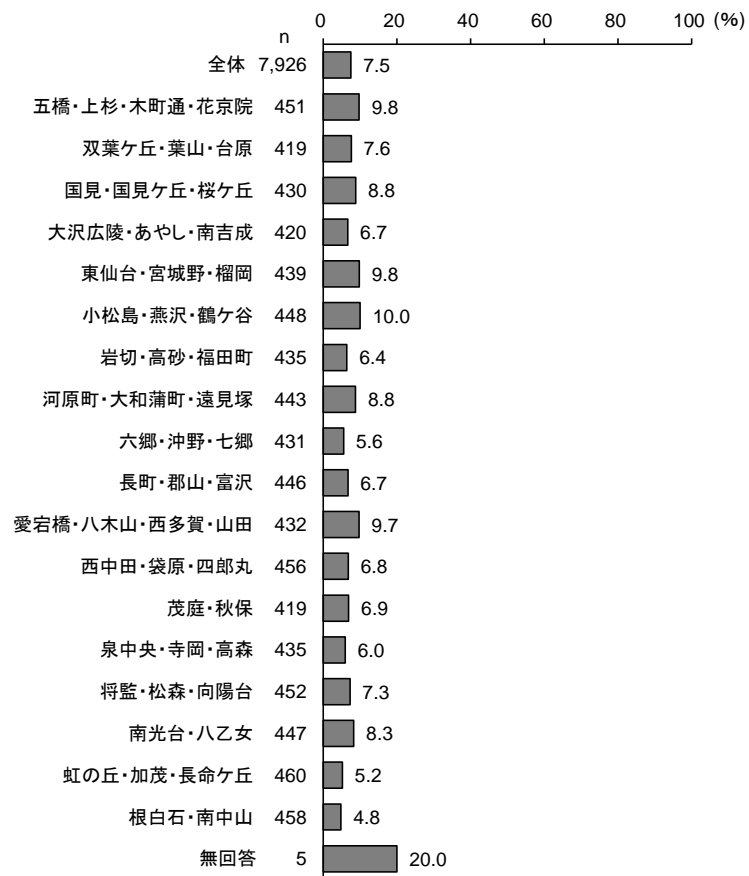
上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	596 100.0	149 25.0	163 27.3	114 19.1	96 16.1	73 12.2	1 0.2
問1 本人の性別							
男性	150 100.0	27 18.0	39 26.0	28 18.7	29 19.3	27 18.0	— —
女性	443 100.0	122 27.5	123 27.8	86 19.4	66 14.9	46 10.4	— —
無回答	3 100.0	— —	1 33.3	— —	1 33.3	— —	1 33.3

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、低体重の方が多くなっており、85歳以上（56.3%）では65～69歳（4.2%）を52.1ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	596 100.0	149 25.0	163 27.3	114 19.1	96 16.1	73 12.2	1 0.2
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	524 100.0	143 27.3	153 29.2	102 19.5	83 15.8	43 8.2	— —
総合事業対象者	6 100.0	4 66.7	— —	— —	2 33.3	— —	— —
要支援認定者	48 100.0	2 4.2	5 10.4	6 12.5	8 16.7	27 56.3	— —
無回答	18 100.0	— —	5 27.8	6 33.3	3 16.7	3 16.7	1 5.6

第3章 生活機能評価等に関する分析

○調査区域別にみると、小松島・燕沢・鶴ヶ谷では低体重の方が10.0%と、他の調査区に比べて多くなっています。



(5) 認知

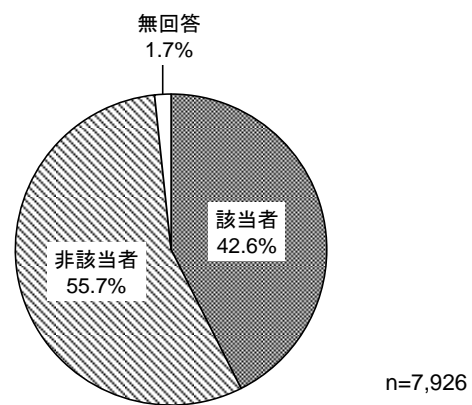
国の手引きをもとに、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で42.6%が認知のリスク該当者となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

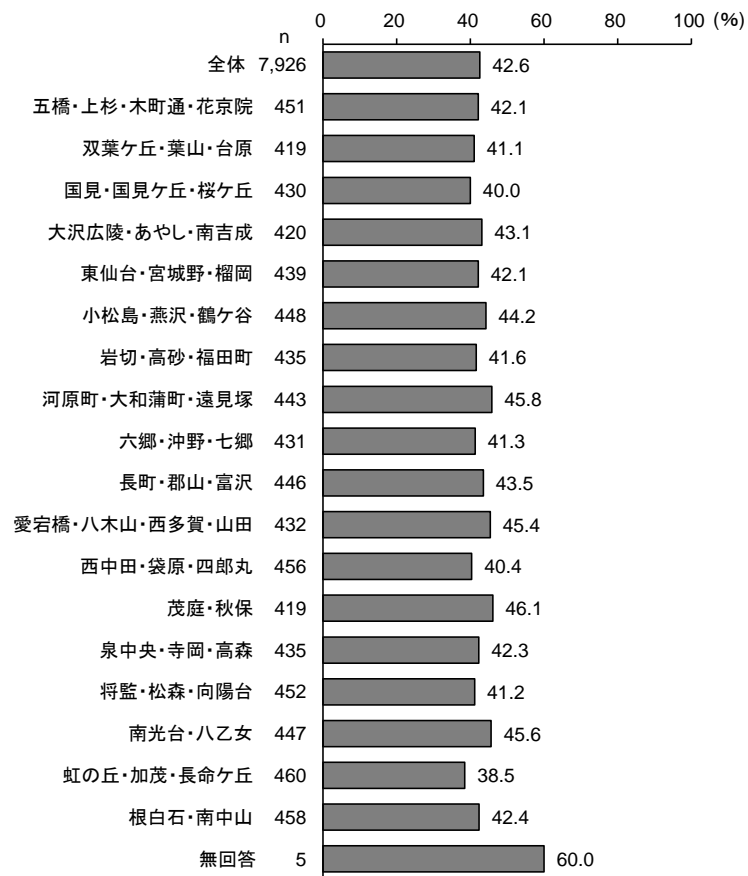
○性別・年齢別にみると、大きな差はみられませんでした。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	3375 100.0	736 21.8	895 26.5	698 20.7	526 15.6	510 15.1	10 0.3
問1 本人の性別							
男性	1,423 100.0	316 22.2	402 28.3	299 21.0	201 14.1	205 14.4	— —
女性	1,925 100.0	417 21.7	486 25.2	395 20.5	323 16.8	303 15.7	1 0.1
無回答	27 100.0	3 11.1	7 25.9	4 14.8	2 7.4	2 7.4	9 33.3

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、認知のリスク該当者が多くなっており、85歳以上（52.5%）では65～69歳（3.7%）を48.8ポイント上回っています。また、85歳以上では要支援認定者が一般高齢者を41.0ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	3,375 100.0	736 21.8	895 26.5	698 20.7	526 15.6	510 15.1	10 0.3
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	2,938 100.0	702 23.9	834 28.4	631 21.5	434 14.8	337 11.5	— —
総合事業対象者	30 100.0	8 26.7	6 20.0	7 23.3	7 23.3	2 6.7	— —
要支援認定者	301 100.0	11 3.7	29 9.6	36 12.0	66 21.9	158 52.5	1 0.3
無回答	106 100.0	15 14.2	26 24.5	24 22.6	19 17.9	13 12.3	9 8.5

○調査区域別にみると、認知のリスク該当者の割合が最も多いのは茂庭・秋保で46.1%、最も少ないのは虹の丘・加茂・長命ヶ丘で38.5%となっており、7.6ポイントの差となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

(6)うつ

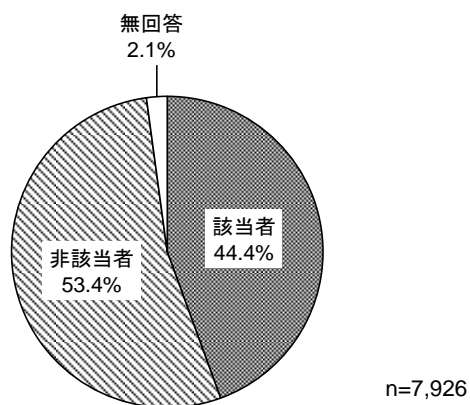
国の手引きをもとに、以下の2項目のうち1項目以上に該当する人をうつリスク該当者としてしました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問11(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問11(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で44.4%がうつリスク該当者となっています。



○性別・年齢別にみると、大きな差はみられませんでした。

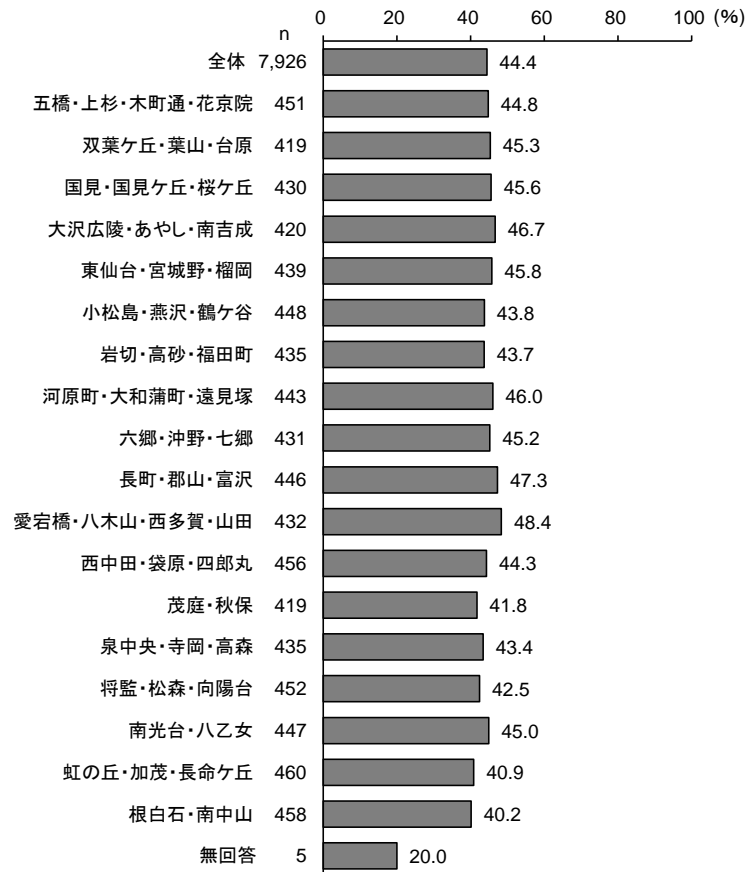
上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	3,375 100.0	736 21.8	895 26.5	698 20.7	526 15.6	510 15.1	10 0.3
問1 本人の性別							
男性	1,423 100.0	316 22.2	402 28.3	299 21.0	201 14.1	205 14.4	— —
女性	1,925 100.0	417 21.7	486 25.2	395 20.5	323 16.8	303 15.7	1 0.1
無回答	27 100.0	3 11.1	7 25.9	4 14.8	2 7.4	2 7.4	9 33.3

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、一般高齢者では70～74歳が30.9%と最も多く、年齢が高くなるにしたがって、うつのリスク該当者が少なくなっています。一方、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、うつのリスク該当者が多くなっており、85歳以上(49.3%)では65～69歳(5.0%)を44.3ポイント上回っています。また、85歳以上では要支援認定者が一般高齢者を41.3ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	3,375 100.0	736 21.8	895 26.5	698 20.7	526 15.6	510 15.1	10 0.3
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	2,938 100.0	702 23.9	834 28.4	631 21.5	434 14.8	337 11.5	— —
総合事業対象者	30 100.0	8 26.7	6 20.0	7 23.3	7 23.3	2 6.7	— —
要支援認定者	301 100.0	11 3.7	29 9.6	36 12.0	66 21.9	158 52.5	1 0.3
無回答	106 100.0	15 14.2	26 24.5	24 22.6	19 17.9	13 12.3	9 8.5

第3章 生活機能評価等に関する分析

○調査区域別にみると、うつリスク該当者の割合が最も多いのは愛宕橋・八木山・西多賀・山田で48.4%、最も少ないのは根白石・南中山で40.2%となっており、8.2ポイントの差となっています。



(7) 手段的自立度(IADL)

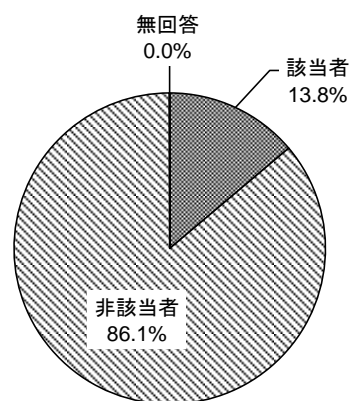
活動的な日常生活を送る上での動作として、手段的自立度＝IADL（Instrumental Activities of Daily Living）の低下を問う設問が5問あり、「できない」を1つ以上選択した人をIADLの低下該当者としました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している :1点 2. できるけどしていない:1点
問7(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している :1点 2. できるけどしていない:1点
問7(4)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している :1点 2. できるけどしていない:1点
問7(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している :1点 2. できるけどしていない:1点
問7(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している :1点 2. できるけどしていない:1点

【リスク該当状況】

○回答結果をみると、全体で13.8%がIADLの低下該当者となっています。



第3章 生活機能評価等に関する分析

○性別・年齢別にみると、女性では85歳以上の年齢層で、男性に比べてIADLの低下該当者が多くなっており、85歳以上では女性（41.1%）が男性（20.0%）を21.1ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	1,097 100.0	122 11.1	250 22.8	204 18.6	193 17.6	317 28.9	11 1.0
問1 本人の性別							
男性	609 100.0	83 13.6	167 27.4	140 23.0	97 15.9	122 20.0	— —
女性	472 100.0	38 8.1	80 16.9	62 13.1	96 20.3	194 41.1	2 0.4
無回答	16 100.0	1 6.3	3 18.8	2 12.5	— —	1 6.3	9 56.3

○要支援等の認定状況別・年齢別にみると、要支援認定者では年齢が高くなるにしたがって、IADLの低下該当者が多くなっており、85歳以上（53.4%）では65～69歳（2.7%）を50.7ポイント上回っています。

上段:件数 下段:%	調査数	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答
全体	1,097 100.0	122 11.1	250 22.8	204 18.6	193 17.6	317 28.9	11 1.0
問3 要支援等の認定状況について							
一般高齢者	814 100.0	112 13.8	211 25.9	175 21.5	132 16.2	184 22.6	— —
総合事業対象者	12 100.0	2 16.7	4 33.3	1 8.3	2 16.7	3 25.0	— —
要支援認定者	223 100.0	6 2.7	27 12.1	23 10.3	48 21.5	119 53.4	— —
無回答	48 100.0	2 4.2	8 16.7	5 10.4	11 22.9	11 22.9	11 22.9

○調査区域別にみると、IADL低下該当者の割合が最も多いのは西中田・袋原・四郎丸で17.3%、最も少ないのは国見・国見ヶ丘・桜ヶ丘で9.8%となっており、7.5ポイントの差となっています。

